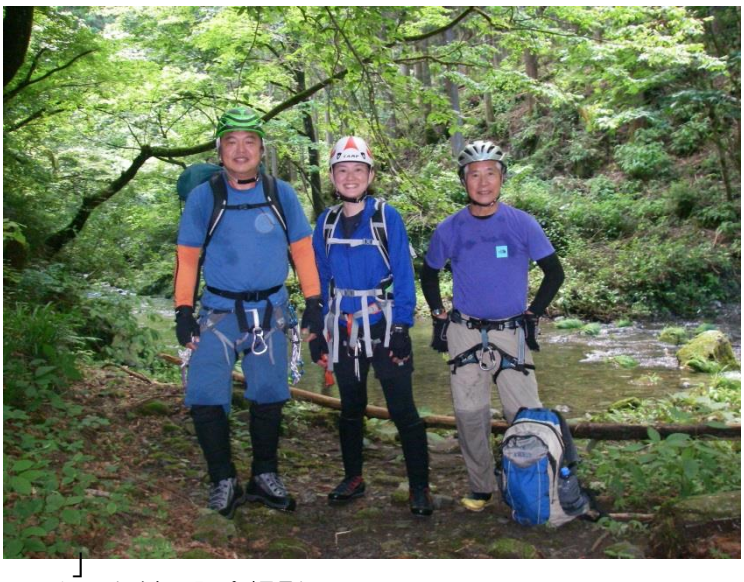
海沢川下流部遡行報告

【遡行日】27 年 7 月 22 日
【遡行場所】奥多摩　海沢川
【参加者】ＣＬ辻本　岸野　鈴木（忠）　板橋
【天　候】晴れ

　梅雨が空けると炎帝が暴れ始める。暑い！ あつい！ 暑い！「炎昼や濃き影縫つて猫歩む」と一句。20 日の月曜日、鈴木さんが経営するお店のラーメンを食べながら、「こんな暑い日は、どっぷり水に浸かる沢に行こうよ」と話が決まる。そうとなれば先週、沢グッズを揃えてもらった板橋さんにも声を掛け、また深瀬さんの「東京マタギのアウトドア教室」に参加し、丹波川で渡渉と泳ぎを教わってきた岸野さんにも「マタギの泳法、教えてよ」と声を掛ける。

　かくして 4 人、22 日の午前 7 時前、千葉駅北口を出発する。やはり通勤渋滞に見舞われ、海沢入渓点の駐車場所に着いたのが 11 時。水に入るには丁度、良い時間。早々の沢支度をする。
沢が始めての板橋さんも、沢靴、沢スパッツを装着すると、いっぱしの沢に見える。
入渓前に急斜面を使い、ザイルワークとエイト環とＥＴＣガイドを使った懸垂下降教える。
さぁ、遡行出発。今回は河原のルートファインディングを経験してもらうため、岸野さんにトップを行っていただいた。実は、渓は蜘蛛の巣でいっぱい。トップは辛い。
最初は不安定な水の中を歩きや、へつりに恐々。トップの歩く通りついて行く。
海沢は濁った水のイメージだったのだが、今日は実に澄んでいる。「きれい！きれい！」と初めての遡行に感嘆の声が上がる。海沢は５回目だけどこんな澄んだ水は始めてだ。これなら泳ぐことに抵抗がない。



スタート前の記念撮影
ハーネス、スパッツなどを着けると、沢屋に見える

始めは恐々、慎重に進む

最初のゴルジュは、長さ 10mほどの釜。ここは右の壁に沿って泳ぎ這い上がる。後続はザックピストンで引っ張り、チームワークで突破する。岸野さんにアドバイスをし、泳いでもらうが、なかなか岸に上がれない。「岸Ｎｏ！ガンバ！」声が届いたのかようやく上った。後続には中間エイトを教え、ザックをカラビナに着け、スイスイと楽ちん泳法で、引っ張られて行く。
ロープの末端は決して離さない事もレクチャー。

始めてのへつり

この釜の先は左に直角に曲がっていて、平水なら泳いで取りつき、上がることができる。しかし今日の水勢では取付くことは無理そう。遡行を進める。直ぐに次のゴルジュが始まり、ここも泳いで通過する。初心者にはザックピストンで引っ張り上げる。

板橋さん
２回目のザックピストンでスイスイ。

鈴木さん
ご機嫌のピース！

さて問題の３ｍほどの小滝である。大きな釜を持っていて、右壁に沿って滝に取付き、岩を上がる。数年前には海上保安庁の若者が中央突破を試み、何度も墜ちては果敢に繰り返したシーンを思い出す。岸野さんに滝の右側を登ることを指示。しかし水勢に負け上がれない。タッチ交代と老骨にムチ打って私が取付く。水が顔を打ち息苦しいが、何とか上がることができた。まだ若さが残っていた。
岸野さんを引き上げ、滝上に上ってもらい、二人で後続を強引に引っ張り上げる。

今日の、水勢は手強かった。

水も手強いが、岸野さんも重かった

其の後もゴルジュが次々と現れ、巻あり、泳ぎありと何とかチームワークで突破した。前回届いたスタンスが届かず、ドボンになることもあり、今日の海沢は初級の上かな。
しかし下界と違い涼しい、涼しい、寒いくらい。鈴木さんが震えだした。時刻は１時半。低体温症が怖いので、日向で遅い昼食を摂り、暖かいドリンクを飲んでもらった。
堰堤が現れ、海沢下部の遡行を終了。海沢園地まで林道を歩き、今日は上部の三つ釜の滝や、海沢大滝まで行かないことにした。休息小屋で沢支度を解き、暫しの休息の後、車まで戻った。時刻は４時前であった。